

伊那市環境報告書

(令和4年度環境調査実績)

伊那市市民生活部生活環境課

1 自然環境の保全

(1) 自然保護

ア 自然公園

自然公園法及び長野県立自然公園条例に基づき、地域内で一定の行為を行う場合、環境大臣または県知事からの許可等が必要となります。許可等の申請があった場合、市に対して国・県から意見照会があります。

区域	照会件数	主な行為
南アルプス国立公園	1件	工作物の新築
中央アルプス国立公園	5件	工作物の新築、工作物の改築、植物の採取
三峰川水系県立公園	14件	工作物の新築、工作物の改築、広告物等の設置

イ 外来植物駆除事業

- アレチウリ駆除（市内一斉駆除日を設定し市内全域で実施）
- ビロードモウズイカ駆除（高遠町地域で実施）
- オオハンゴンソウ駆除（東春近野田山アヤマ園付近で実施）
- ブッドレアの駆除（長谷地域の黒川と三峰川合流点付近で実施）
- ヒメジョオン、ブッドレア等駆除（南アルプス林道沿い）

ウ 新山「トンボの楽園」保護・整備活動

環境省が行う、自然環境保全基礎調査の指標昆虫の一つであるハッチョウトンボを始め、多くのトンボが生息するトンボの楽園の保護や整備を地元管理団体(新山トンボの楽園を育てる会)と協働して実施しました。

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・県支援金により観察用通路の整備 ・環境整備（草刈等）の実施

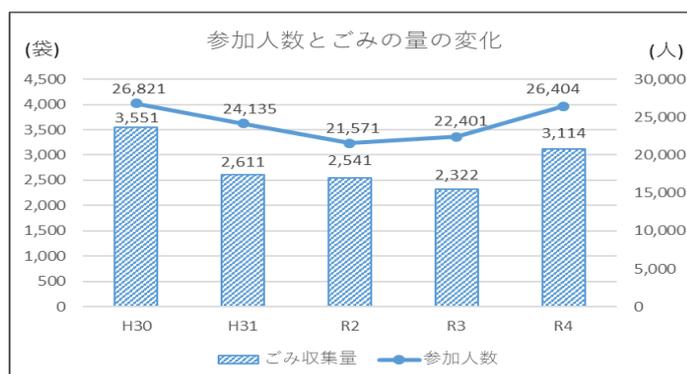
(2) 環境美化

環境美化活動及び空き缶等回収

- 環境美化活動 11月13日、3月12日
- 空き缶等回収 6月19日

【実績】

参加人数	26,404人
ゴミ収集量	3,114袋
可燃ごみ	2,417袋
不燃ごみ	636袋
その他ごみ	61袋



2 生活環境の保全

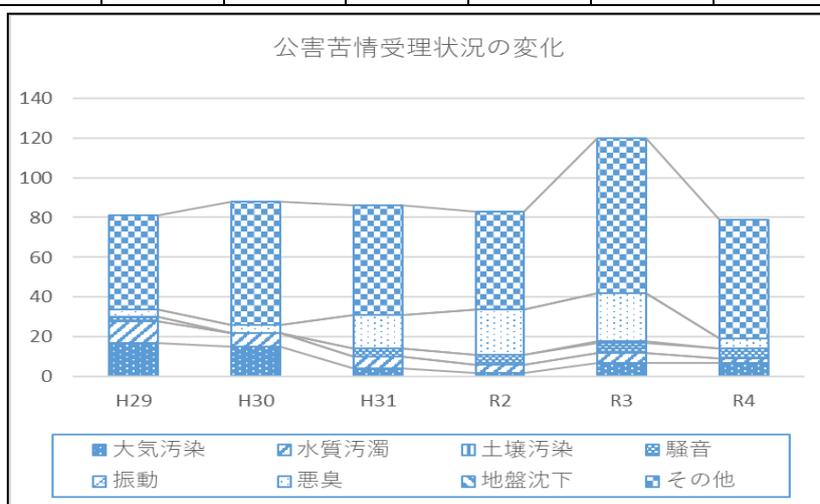
(1) 公害苦情受理状況

公害苦情の受付件数は、その他が伸びており、土地や空家の周辺環境に対する苦情がほとんどを占めています。

実際に健康や財産等に被害を受けたものはなく、感覚的・心理的な公害苦情が多い状況です。

ア 件数

大気汚染	水質汚濁	土壌汚染	騒音	振動	悪臭	地盤沈下	その他	年計
7	2	0	5	0	5	0	60	79



○種別内訳

種別	内容	処理対応
大気汚染	廃棄物の野焼き、不適正な焼却炉の使用など	現地確認、野外焼却チラシによる指導
水質汚濁	灯油の河川への流出、車両交通事故による水路へのガソリン流出など	現地確認、必要に応じて吸着剤の散布
騒音	工場や商業施設からの騒音など	対策を講ずるよう指導
振動	道路工事に伴う振動	県との情報共有
悪臭	堆肥や野焼きの臭いなど	野外焼却チラシによる指導
その他	ペットの不適正な飼育、管理者不在の土地や空家の周辺環境の悪化など	文書による指導、訪問による指導

イ 用途地域別

都市計画用途地域								都市計画 区域外	合計
住居	近隣商業	商業	準工業	工業	工業専用	無指定	計		
25	0	2	0	0	0	51	78	1	79

ウ 種類別

健康	財産	動植物	感覚的・心理的	その他	合計
1	0	3	73	2	79

エ 野外焼却苦情受付月別件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0	0	1	0	0	0	2	3	1	0	0	1	8

(2) 自動車交通騒音調査

騒音規制法第 18 条第 1 項の規定に基づき、伊那市内の自動車騒音の状況を常時監視するため、「騒音に係る環境基準の評価マニュアル」(平成 12 年 5 月 15 日付け環大二第 51 号、環大企第 101 号 環境庁大気保全局長通知 以下、「評価マニュアル」という。)及び「騒音規制法第 18 条の規定に基づく自動車騒音の状況の常時監視に係る事務の処理基準について」(平成 23 年 9 月 14 日付け環水大自発 110914001 号環境省水・大気環境局長通知)に基づき、伊那市内の主要幹線道路における様々な道路条件、沿道条件等を踏まえ、道路交通騒音の環境基準達成状況を戸別建物ごとの的確に評価することを目的として自動車騒音測定を行っています。

ア 騒音測定

(平均値・単位 dB)

測定路線・地区	戸数	環境基準		測定結果		基準適否	
		昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
一般国道 153 号	112	70	65	71	67	否	否
一般国道 361 号	482	70	65	67	59	適	適

(3) 河川水質検査

水質検査指定河川である天竜川、三峰川は天竜川上流河川事務所が水質検査を実施しているため、平成 27 年度から市の検査は実施していません。なお、天竜川上流河川事務所による水質検査の結果は次のとおりです。

河川	観測所	類型	項目	単位	R元	R2	R3	R4
天竜川	中央橋	B	BOD	mg/L	1.5	1.4	1.7	1.7
			大腸菌群数	MPN/100mL	6,218	7,200	5,800	540
三峰川	竜東橋	A	BOD	mg/L	0.6	0.6	1.0	1.0
			大腸菌群数	MPN/100mL	860	1,800	3,600	130

※「水質汚濁に係る環境基準について」の改正に伴い、令和 4 年 4 月より検査項目が「大腸菌群数」から「大腸菌数」へ変更

(4) 伊那市光化学オキシダント緊急時対策実施要領の運用
注意報等の発令はありませんでした。

(5) 微小粒子状物質(PM2.5)注意喚起情報発表に伴う広報
注意喚起情報発表はありませんでした。

(6) 水質事故の対応

オイルなどの流出事故が2件ありました。

【状況】

- ・重機火災によるオイルの流出 1件
- ・重機故障による燃料漏れ 1件

3 廃棄物処理

(1) 処理費用

年度	人口 (10.1現在)	世帯数	処理費	処理量	1人当り 処理費	1世帯当り 処理費	1人1日 排出量
R4	66,214人	28,285世帯	476,592千円	15,073t	7,198円	16,850円	623.7g
【参考】 R3	66,642人	27,995世帯	345,435千円	15,197t	5,183円	12,239円	624.8g

※上記の数字は、家庭系ごみと事業系ごみの合計数字です。

※家庭系ごみの1人1日あたりの排出量は、403.3gです。



(参考)廃棄物処理の処理費等算出根拠

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
人口(人)	68,689	68,381	67,896	67,290	66,642	66,214
世帯数(世帯)	27,337	27,560	27,761	27,829	27,995	28,285
処理費(千円)	436,915	336,576	310,389	337,946	345,435	476,592
処理量(t)	17,455	16,330	16,480	15,774	15,197	15,073

(2)一般廃棄物の処理量

ア 可燃ごみ・不燃ごみの処理量

(単位：t)

区分		家庭系		事業系	その他	計 (自家処理は除く)
種類		計画収集 (家庭系指定袋 【直接搬入含】)	直接搬入 (家庭系有料)	直接搬入 (許可業者)	不法投棄・災害等	
可燃ごみ	R4	8,384.93	552.82	3,319.03	6.87	12,263.65
	R3	8,317.64	544.47	3,291.83	20.21	12,174.15
不燃ごみ (含む粗大ごみ)	R4	432.88	337.65	4.46	6.13	781.12
	R3	470.00	362.56	6.21	6.62	845.39
内 鉄	R4	166.38				
	R3	187.22				
内 アルミ	R4	17.17				
	R3	18.59				
内 雑品	R4	7.97				
	R3	7.72				
計					R4	13,044.77
					R3	13,019.54

イ 資源ごみ等の処理量

【単位：t】

種類	R4年度	参考	
		R3年度	R3からの伸び率(%)
不燃ごみ(資源分)	191.52	213.53	-10.31%
(内) 鉄	166.38	187.22	-11.13%
(内)アルミ	17.17	18.59	-7.64%
(内)雑品	7.97	7.72	3.27%

資源プラスチック	608.65	635.90	-4.29%
古紙類	906.49	1,036.65	-34.05%
びん類	295.75	301.07	-6.46%
スチール缶	26.58	21.86	21.59%
アルミ缶	27.71	23.43	18.27%
牛乳パック	3.31	3.65	-9.32%
ペットボトル	70.55	69.73	1.18%
廃食用油	2.26	2.02	11.88%
衣類	60.16	54.74	9.90%
有害ごみ	24.85	25.26	-1.62%
その他	1.50	3.35	-55.22%
計	2,219.36	2,391.19	-16.96%

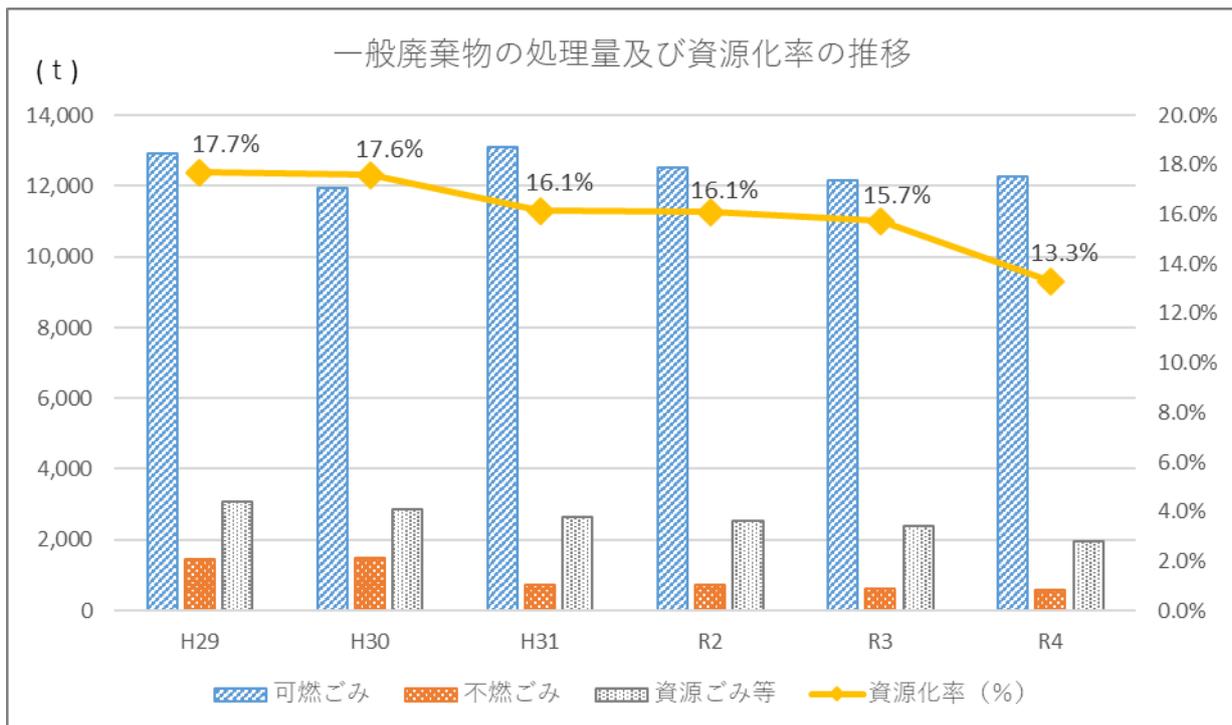
ウ 一般廃棄物の処理量(まとめ)

【単位：t】

	可燃ごみ	不燃ごみ	資源ごみ等	合計
R4年度	12,263.65	589.60	2,219.36	15,072.61
R3年度	12,174.15	631.86	2,391.19	15,197.20

エ 資源化率

$$\begin{aligned}
 & \text{資源ごみの処理量} / \text{可燃ごみ} \cdot \text{不燃ごみ} \cdot \text{資源ごみ等の総処理量} \\
 & = 1,970.15 / 14,823.40 \\
 & = 13.29\%
 \end{aligned}$$



(3) 家庭から指定ごみ袋で排出されたごみの組成 (単位：%)

可燃物 測定：10月・2月の年2回		不燃物 測定：10月・2月の年2回	
資源化できるガラス	0.00	資源化できるガラス	32.10
資源化できる紙類	29.88	資源化できる紙類	0.43
資源化できるプラ	7.15	資源化できるプラ	1.85
資源化できる金属	0.00	資源化できる金属	10.19
厨芥類	39.79	布類	0.00
布類	4.07	ゴム・皮革・アルミ箔	1.16
ゴム・皮革・アルミ箔	1.22	木・竹等	0.00
木・竹等	2.16	その他の可燃	3.50
その他の可燃	15.24	不燃ごみ	3.24
不燃ごみ	0.49	小型家電	5.60
		プラと金属の複合	13.70
		金属・ガラス・陶磁器	27.35
		処理不適物	0.88

(4) 回収事業

ごみの減量化等を図るため、衣類、使用済乾電池、廃食用油の回収を行いました。

ア 衣類

開催時期・会場			
6月26日、10月30日にそれぞれ9会場にて開催			
回収結果			
総数		60,160kg	
実績	リユース	古着として	20.00%
		ウエスとして	10.00%
	再生繊維としてリサイクル		50.00%
	廃棄		20.00%

イ 使用済乾電池蛍光管の回収

開催時期・会場	回収結果
11月13日、3月12日 (河川一斉清掃に合わせて実施)	24,850 kg

ウ 廃食用油の回収

開催時期・会場	回収結果
2ヶ月に1回 (市内一部のステーション)	2.26 t

(5) 補助制度

ア ごみ収集ステーション設置補助事業補助金

件数	20 件	実績額	1,292 千円
----	------	-----	----------

イ 生ごみ処理容器等購入補助金

件数	85 件	実績額	1,462 千円
----	------	-----	----------

※機器内訳：電気式 67 台、容器式 18 台

4 地球温暖化防止

(1) 伊那市環境審議会

伊那市環境審議会は、伊那市環境保全条例に基づき設置された組織です。令和4年度は、審議회를1回開催し、伊那市環境基本計画の概要や進捗状況、伊那市環境報告書等について審議しました。

(2) 伊那市新産業技術推進協議会サステナブル環境部会

サステナブル環境部会は、伊那市新産業技術推進協議会の一つの部会として設置された組織で、伊那から減らそうCO2!!の取り組み等について協議・検討しています。令和4年度は、前年度から検討を進めていた2050年カーボンニュートラル行動計画を策定しました。

(3) 再生可能エネルギーの普及推進

ア 熱利用（二酸化炭素排出抑制計画（2016(H28)~2025(R7)）より）

設備	施設名	策定時	目標(R7)	R4進捗状況	
		設置数	設置数	設置数	達成率(%)
ペレットストーブ	民間	54	354	295	83.3
	公共施設(公民館、学校)	160	290	289	99.7
ペレットボイラー	温泉施設	1	5	2	40.0
	保育園	6	14	10	71.4
	学校調理場	3	12	9	75.0
	民間(みぶの里)	1	11	1	9.1
	農業用ハウス	3	23	7	30.4
	民間	0	50	0	0.0
薪ストーブ	民間	324	1,194	1,189	99.6
太陽熱	民間(補助件数)	103	343	225	56.9

イ 補助制度

〔住宅用太陽熱利用システム設置補助〕

件数	14 件	実績額	700 千円
----	------	-----	--------

(4) 経木の活用

地元産材の新たな活用や脱プラスチックへの取り組みとして、木を薄く削って作る「経木」を食材の包みや仕切り、敷物などへ活用するとともに、更なる活用の検討を行いました。

■市内事業者による生産量 80,000 枚/月

(5) 麦ストロー

脱プラスチックへの取り組みの一環として、プラスチック製ストローの代替品として、麦ストローの普及に取り組みました。農福連携の事業として作成した麦ストローを民間事業者の食堂等で活用いただき、普及・啓発を図りました。

■生産量 R3:4,000 本 R4:4,000 本

(6) ヘチマたわし

プラスチック製スポンジの代替品として、ヘチマたわしを農福連携事業として作成し、普及に取り組みました。ヘチマを栽培した保育園等で活用しています。

■生産量 R3~R4：160 個

(7) エコバック普及事業

伊那市環境基本計画の重点プロジェクトとして掲げている「伊那から減らそう CO2!!」及び「すすめようプラごみの削減」への取り組みとして、民間企業から協賛いただき、エコバック 5,500 個を作成し、コンビニエンスストア利用者に配布し、普及・啓発を行いました。令和 5 年度は、このエコバックを活用し、さらに普及・啓発に取り組みます。

■協賛企業：15 社（22 口） 作成数：250 枚×22 口=5,500 枚

5 環境問題啓発・環境学習

(1) 環境啓発(伊那市環境展の開催)

伊那市環境展 2022 は、上伊那クリーンセンターを会場に開催しました。上伊那クリーンセンターの見学や再生可能エネルギー見学ツアー等を新たに実施し、更なる環境意識の向上に取り組みました。

〔開催の概要〕

日時：令和 4 年 10 月 2 日(日) 午前 10 時から午後 2 時まで

会場：上伊那クリーンセンター

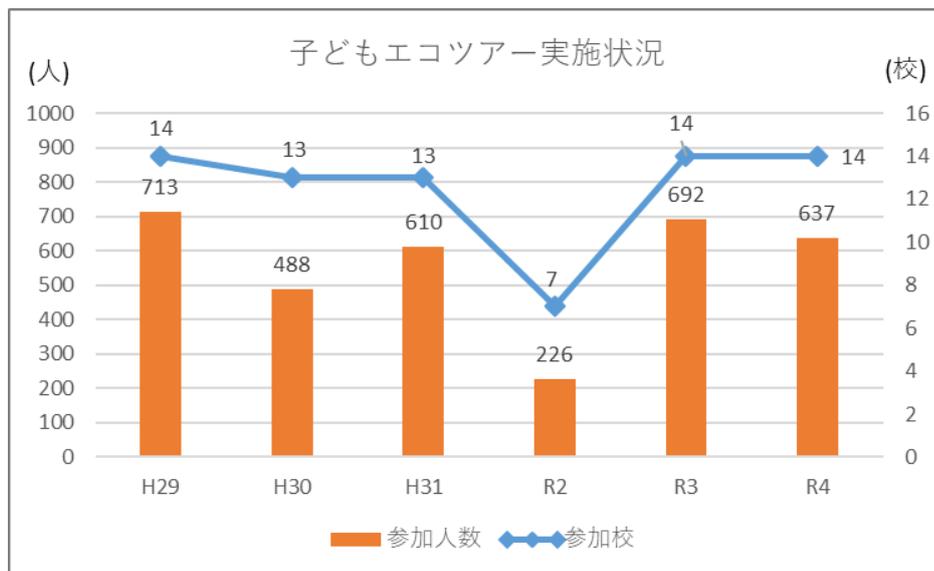
内容：地球温暖化、自然エネルギー、地域の自然環境、ごみ処理、3R など私たちの生活に関わる身近な問題について情報発信

(2) 環境教育

ア 子どもエコツアーの実施

市内小学 4 年生の児童を対象に、環境への関心を高めることを目的としてごみ処理施設等の見学や林業体験等を実施しました。

実施回数	23 回	参加校	14 校	参加人数	637 人
------	------	-----	------	------	-------



イ 環境教育用副読本

小学校 4 年生を対象とした環境教育用副読本「地球にやさしい きれいな伊那市に」を作成し、4 年生の児童に配布しました。各校において、環境教育の中で、活用していただきました。

ウ スターウォッチングの実施

星空の観察という身近な方法により、大気保全の重要性の認識や宇宙への関心を深めていただくことを目的として、プラネタリウム鑑賞と屋外での星空観察を行いました。

○開催日時及び会場

日時：令和 4 年 11 月 5 日(土)

午後 6 時 30 分から午後 8 時 30 分まで

会場：長野県伊那文化会館（プラネタリウム）

春日城址公園（星空観察）

○参加者数 31 名（13 組）

伊那市環境報告書(令和4年度環境調査実績)

令和5年7月作成

伊那市

〒396-8617

長野県伊那市新田3050 番地

市民生活部生活環境課環境政策係

TEL: 0265-78-4111 内線:2211

FAX: 0265-73-4151

E-mail: sei@inacity.jp
